

要素実習「除染」実習概要

【目的】

- ・体表面汚染のある患者に対する除染の準備・手順を理解し、手技を習得する。
- ・汚染拡大防止に留意した除染手技を習得する。

【到達目標】

1. 除染の手順を理解できる。
2. 汚染拡大防止に留意した除染手技を習得できる。

【実習項目の例】

- ・乾式除染；脱衣：医療者が傷病者を脱衣させる場合を実習
（傷病者が自分で脱衣できる場合については資料で説明する）
 - ・乾式除染；拭き取り除染
 - ・湿式除染；水を用いた除染
- ※基本的に蛍光剤を使用して実習する。
- ※スライド資料の留意点を確実に受講生に指導する。

【実習内容・手順】

※基本的に蛍光剤を使用して実習する。

	【1.】乾式除染；脱衣 1) 蛍光剤で汚染した衣服を着ているマネキン脱衣させる。 2) 周囲の汚染と受講生の汚染がどの程度かブラックライトで確認する。 □受講生はディスポエプロン、ディスポ手袋、足袋等を装着し、自身への汚染拡大防止を図る。 □除染の手順（脱衣→拭き取り除染→湿式除染）について説明する。 □傷病者が自分で脱衣できる場合については資料で説明する。
	【2.】乾式除染；拭き取り除染 1) マネキンの創傷部の汚染範囲（蛍光剤の塗布範囲）を確認し、ぬれたガーゼで拭き取る。 2) 拭き取り除染後の残存汚染がどの程度かブラックライトで確認する。 □優先して除染する部位（1.創傷部、2.開口部、3.健常皮膚）について説明する。 □拭き取り除染により、創傷の程度を悪化させる恐れがある場合には、拭き取り除染をせずに湿式除染することを説明する。
	【3.】湿式除染；水を用いた除染 1) マネキンの創傷部の汚染範囲（蛍光剤の塗布範囲）を確認し、汚染範囲以外を養生する。 2) 汚染拡大に留意して、水を用いて除染する。 3) 湿式除染後の残存汚染がどの程度かブラックライトで確認する。 4) 周囲の汚染と受講生の汚染がどの程度かブラックライトで確認する。 □除染に用いた水は汚染水であることに留意する。 □除染後は汚染拡大に留意して養生を外し、水分を拭き取った後で除染の評価をすることを説明する。